

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立東山小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年から英会話学習を実施することで、外国の文化に触れ、ALTやEAAとコミュニケーションを取ろうとするなど興味・関心をもって学習している。
- ・身近な場面を想定したやりとりや、年中行事に関連させたアクティビティを扱うことで、低学年から英語に慣れ親しむことにつながっている。特に低学年では、英会話学習を楽しみにしている児童が多い。
- ・5・6年の「英語チャレンジDAY」では、様々な国に関するアクティビティを通して、それぞれの国への興味感心の高まりが見られた。また、ALT・EAAとのコミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

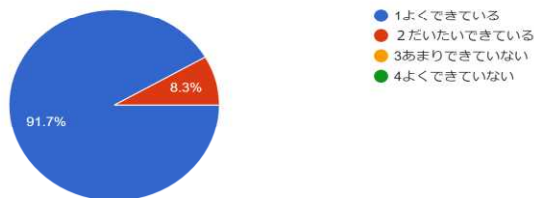
(4) 学校関係者による評価

<児童>

- ・第1学年児童は、特に英会話学習への関心が高く、児童アンケートでは、すすんで取り組んでいるという児童が90%以上となっている。

児童アンケート（1年生）

⑤がっこうの えいかいわがくしゅうに すすんで とりくんでいますか
36件の回答



- ・第2学年以上の児童も、「すすんでとりくんでいる」という項目に「よくできている」「だいたいできている」と答えている児童が70%~80%おり、6年間を通して英会話 学習へ意欲的に取り組むことができている。

<保護者>

- ・保護者アンケートの結果より、英会話学習の実施が英語に慣れ親しむことにつながっていると感じている保護者がおよそ6割以上となっていた。
- ・英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっている、と感じている保護者もおよそ6割以上となっていた。
- ・英会話学習の実施によって外国語や外国の文化に対する興味・関心が高まっている、と感じている保護者もおよそ6割以上となっていた。
- ・低学年の保護者では、英会話の時間がもっと多めにあっても良いと思うという意見もあった。

3. 実施の効果及び課題

- ・第1学年からの英会話学習の実施によって、積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲が育ち、その結果、コミュニケーションの基礎基本が身に付いてきていると思われる。
- ・高学年では、外国語(教科)において、アクティビティを交えての活動を設定することで、学習に意欲的に参加できる児童が多い。反面、「読むこと」「書くこと」にも力点がかけられるようになったことで、英語に苦手意識を持っている児童もいる。このことが影響してか、英会話学習にも苦手意識をもつ児童が見られる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・英語でコミュニケーションの楽しさを味わわせるための雰囲気づくりを大切にし、アクティビティの工夫や視覚的教材などの積極的な活用をするとともに、児童の実態に合わせて意欲づけや支援をしていきたい。